

在宅介護を支える仕組みとして、2006年に導入された介護保険除サービスが「小規模多機能型居宅介護」だ。事業所に通ったり、職員に自宅を訪問してもらったりと、様々なサービスを柔軟に組み合わせることで利用できるのが特徴だ。

なるほど！ 9

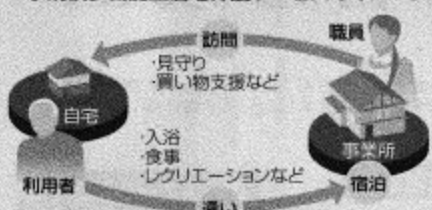
介護事典

「体調はどうですか。今日の訪問は何時頃がいいですか」。川崎市内の団地で独り暮らしをする女性(81)の一日は、午前8時半、「エイジフリー小規模多機能型ケア川崎有馬」の職員からの電話で始まる。この日は女性に外出の予定があったため、普段は午後3時頃のところ、午前中に訪問してもらうことにした。

女性の要介護度は「要支援2」で軽いが、足が悪く、長時間の歩行や階段の上り下りが難しい。職員は電話で安否確認するほか、週2回、自宅を訪れ、生活で困っていることなどの相談に乗る。週2日は女性がエイジフリーに通って昼食をとり、職員らと雑談したり散歩をしたりして過ごす。大みそかは、日中、エイジフリーで過ごし、そのまま宿泊して年を越す予定だ。食費などを含めた1か月の負担額は約1万7000円。女性は「家に一人でいるのは寂しい。ここを利用することで、離れて暮らす娘も安心できる」と話す。

「通い」「宿泊」「訪問」を柔軟に

◆小規模多機能型居宅介護サービスのイメージ



小規模多機能型居宅介護は、住み慣れた地域で、生活スタイルを変えずに暮らし続けられるよう支える仕組みだ。事業所で食事や入浴などのサービスを受ける「通い」や「宿泊」、職員が利用者宅を訪れる「訪問」の3種類のサービスを同じ事業所が提供する。費用は要介護度に応じた

小規模多機能型「地域密着」で注目

定額制で、通いと訪問は何度利用しても料金は変わらない。宿泊費や食費は実費負担だ。あらかじめ決められた日以外でも利用でき、服薬管理や配食といった短時間の訪問を1日に複数回

頼むなど、通常の訪問介護サービスでは難しい利用の仕方もできる。「ユアハウス弥生」(東京都文京区)のケアマネジヤリ 横島真美さん(43)は「利用者の状態に合わせ、

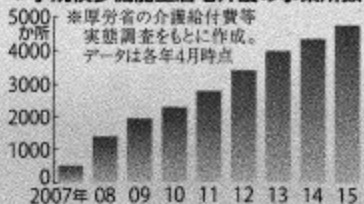
柔軟にサービス内容を変えられるのが利点」と話す。ユアハウスを3年半前から利用する80歳代の女性は、当初は「要介護1」で、職員が服薬管理や買い物の手伝いに訪問する程度だった。しかし、1年前、甲狀腺の病気で入院したのを機

◆1か月あたりの費用負担の目安

要介護度	自己負担額	実費負担
要支援1	3403円	食費 宿泊費 日常生活費(おむつ代など)
要支援2	6877円	
要介護1	10320円	
要介護2	15167円	
要介護3	22062円	
要介護4	24350円	
要介護5	26849円	

※自己負担額は1割、1単位10円で計算した場合

◆小規模多機能型居宅介護の事業所数



「エイジフリーハウス川崎有馬」の食堂でスタッフ(奥)と談笑する利用者ら。自宅と事業所の両方でサービスを受けられる

に認知機能が低下し、「要介護4」に。元の生活に戻るのは難しいと思われていたが、退院してユアハウスにしばらく宿泊した後、通いと訪問を組み合わせて自宅にいる時間を徐々に延ばし、退院1か月後には独り暮らしを再開したという。

全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の川原秀夫理事長は、「どのサービスも頼なじみの職員が提供する。環境が変わると混乱しやすい認知症の人に特に有効だ」と話す。

要介護度が上がり、在宅介護ができなくなってきたから利用を検討するケースが多いが、早い段階から利用すれば職員や事業所にもなじみやすく、スムーズに支援できるという。医療の必要がある利用者向けに、訪問看護を行う事業所もある。ただ、事業所数は全国で約5000で、約4万か所ある通所介護施設に比べて少ないうえ、利用できるのは事業所のある市区町村の住民に限られる。様々なサービスの組み合わせが特徴なので、日中のレクリエーションやリハビリが目的の人には物足りない面もある。急な宿泊や訪問にどれだけ対応するかは、事業所によって異なるので注意が必要だ。川原理事長は「実際に見学し、事業所の雰囲気やサービスの内容を確認してほしい」と話している。